学童保育での学習活動として、ネイバー・キッチンを採用、実施

Neighbor Kitchen

活動の目的

ネイバー・キッチン（以下NK）は、ツクル・キッチン、タベル・キッチン、2つのキッチンで構成されています。ツクル・キッチンでは対話と調理が同時進行するワークショップを体感することで、自分の好みや食べたいものを認識し次の調理へのきっかけをつくると同時に、創造力や発想力を使い、料理を通した表現経験を重ねることで、自分と他者の共通点や違いを意識し、そこから相互理解を生み、インクルーシブな社会形成へとつなげていくことを目的の1つとしています。タベル・キッチンでは出来た料理をその場で互いに食します。食べるという日常の行為を分かち合うことで、自分や誰かが作った新しい味に出会い、その味覚に対する様々な感情を尊重し合いながら、食が持つ多様性に触れられる場を設けます。本助成では、学童保育と共同してNKを実施し①多くの学童保育が体験型プログラムの導入を検討、希望している状況で、ある分野に特化した個人や団体（NKの場合は「食」と「表現」）と手を取り合うことで、施設の負担を軽減しつつ、学童保育に新たな学びの機会を設けること②「食」から自分を知り、相手を理解する、またそのヒントがある、ということを日常生活の中で感じ取れるスタンスを形成すること、この2点を目的としました。

活動の内容及び経過

夏期休暇中に2回、冬期休暇中に1回実施し、普段は異なる小学校に通う1年生から6年生、約10人の子どもたちが参加しました。

1回目は「自分の好きを集めたら」（自分の好きな食べ物だけを主張してそれらを全て組み合わせた料理は、みんなの好きな料理になるのだろうか）、2回目は「夏の料理絵日記」（それぞれの夏の出来事を、料理で一つの大きな絵日記風に仕上げよう）、3回目は「dish for two」（いつも自分の為に料理をしてくれている人を思い浮かべ、その人が自分に何度も作ってくれる料理、その人が好きな料理など、その人にまつわる料理をなにか1つ、自分なりに再構築する）と、各回異なるテーマを設定して取り組みました。

今回の事業は、直面する課題や問題に対し、その場の力で解決するということに重点を置きました。個性が交錯する場で、「食の嗜好」も個々のパーソナリティーとして尊重しつつ、そこにはどの様な共通項があるのかを真剣に探りながら、ワークに取り組みました。

活動の成果・効果

活動自体が中長期的な効果を期待するものなので、子どもたちにすぐに大きな変化が見られるわけではありません。しかし、食材選びから調理法まで全て自分で決断したことが影響しているのか、普段苦手なものや、食べ慣れないものも、納得して口に運ぶことができ、短期的には食の幅を広げることに寄与できたように感じています。

また、学童の管理者からは、子どもたちにとって食事は気がづけばなんとなく提供されているもので、生活に近いところにあるにも関わらず、その実感が薄かった状況が、NKを体験した後からは、子どもたちの日々の言動の中に「食」が話題になることが増えて、知識と経験の一体化が垣間見えていますとご評価をいただきました。

その他、波及的な効果としては当事業を通した広報や活動報告に伴い、次年度は県内の専門学校や通信制の高校などから共同実施を新たにご提案いただき、現在実施に向けて計画を進めています。

今後の課題と問題点

ワークの内容構成に当たり、子どもたちの生活実態をもう少し施設の方と丁寧に事前共有していくことで、より納得の度合いをたかめることができたのでは、と感じました。また調理の過程をより充実させるために、当事業の趣旨を理解して行動に移せるスタッフを強化、増員する必要性を感じました。

●代表者：杉本克敬　●所在地：岡山市北区中山下
●TEL：080-7896-1634
●E-MAIL：neighborkitchen.ok@gmail.com
●URL：https://www.facebook.com/neighborkitchen.ok/
●設立年：2016年　●メンバー数：2名